

第 134 回番組審議会 2026 年 7 月 10 日(金)開催

[出席委員]

井野瀬 久美恵 委員長、高見 孔二 副委員長、
橋爪 紳也 委員北川 チハル 委員、
原 美和 委員、中西 悠子 委員、
龍沢 正之 委員

[欠席]

松山 秀明 委員

[当社側出席者]

塩浜 昭男 代表取締役社長
三好 康嗣 常務取締役
田中 信行 編成局長
藤田 真隆 営業推進部長
山下 めぐみ 事務局長
長沢 弥香 事務局員

議事の概要

- 1) 塩浜社長より、現況について報告。
- 2) 三好常務より 7 月～8 月の編成について説明。
- 3) 審議の課題番組について、委員からのご意見・ご質問をいただき、それに対して制作側から回答

審議課題

『工藤公康の「ちょっと過酷な」大人の休日 i n 福岡 釣り祭り！第二弾 』

[2 0 2 6 年 5 月 2 8 日(木) 20 時 00 分～21 時 30 分放送]

各委員からの主なご意見

評価すべき点

- ・釣りあり野球教室あり料理ありということで、バラエティに富んでいて、テンポも良く変化をつけているので、飽きさせることのない番組であった。
- ・2021 年に始まったこの番組が、その後 2022 年にこの番組審議会でも取り上げているが、それが今まで続いているのは、まず素晴らしい。
- ・工藤さんのお人柄であったり自然体な感じがいいということもあるが、おそらくスタッフ

との関係が大変上手くいっていて、人と人とのふれあいというか、そういう温かみを感じる番組になっていて、とても楽しく見る事ができた。

- ・釣りを楽しむ中で、息子さんとのリアルな親子関係や、その他にも随所にそういった何気ない交流があり、その様子は見ていてとても心地良かった。
- ・釣りのシーンも、ほかの釣り専門番組と遜色のない仕上がりであった（釣り好きな委員の方より）。
- ・野球教室についても、動体視力や体感トレーニングといったところで、子供たちを飽きさせない～目からうろこの練習法も紹介されており、非常に興味深く拝見した。

気になった点

- ・釣りからバーベキュー、それから野球教室といった流れの中で、野球教室が取ってつけたような感じが、かなり無理があったように感じた。その流れに工夫が必要だったのではないか。
- ・野球教室当日は雨である内容だったが、晴れて外でやっていれば、また違う内容のトレーニングだったのか。
- ・工藤選手は、我々にとっては偉大な選手だが、現役選手ではない工藤さんが、10 歳前後の少年たちの前に出るときにどういったリアクションになるのか。
保護者の方のご存じだろうが（もしくは保護者の中にも知らない方もいらっしゃるかもしれないという中で）、登場するシーンの演出部分にもう少し工夫が必要であったのではないか。
- ・小鹿アナが業界人らしくテンション高めにレポートしてくれるのは良かったが、一方で工藤さんが不愛想に映っており（野球教室や息子さんとのやり取りでは感じられなかったが）、無理をして番組に参加している一般人に見え、もう一人誰かいてもいいのではないかと感じた。
- ・タイトルにも「過酷な」という言葉があるが、2 日目のスケジュールなどは特に過酷すぎて、出演者の睡眠時間を確保できないロケというのは、するべきではないのではないか。
この時代、そもそも過酷さをアピールすることは売りにはならない、この時代には合っていない。

こうした各委員のご意見を弊社制作者とも共有し、今後の番組制作の参考とし、更なる番組の質の向上に努めたいと思います。